

花も実もあるNPO法人を目指して

今号より「会報」から「追浜あんず通信」に名称が変わりました。実は1・2合併号の末尾に、いずれ正式な名称を付けたいと書いていましたが、ようやく第6号で名称が決まりました。貝山緑地にあんずが植えられ、「杏の里」と称されています。これは2004年7月から追浜観光協会により「貝山緑地を杏の里に！」ということで、市民による苗木の購入・寄付と市民有志による選定等があって、春には美しい花が咲き、6月ごろには実がなるようになりました。

2004年は横須賀おっぱまワインの醸造が始まり(完成披露は2005年5月)、現在の「こみゆに亭カフェ」の前身である「追浜こみゆに亭」の開店(2004年10月)と、今につながる動きが出てきた時期でもあります。会報の名称を考えるにあたり、10年を経て花も実も付けるようになった杏にあやかり、花も実もあるNPO法人にと考えた次第です。それには杏同様、会員のみならずみなさまに手をかけていただき、すなわち、ご支援、ご協力が無くてはなりません。なにとぞよろしくお願い致します。当法人の事業としては、第三海堡遺構の保存・活用をはじめ、追浜の歴史遺産等をまちづくりに生かすことを大きな役割の一つと考えております。すでに「貝山地下壕見学のしおり」(依然として立入り禁止なのは残念。今後も管理者側に安全な公開を働きかけます)「東京湾第三海堡物語」を発行しましたが、このたび「追浜トンネル物語」を刊行しました。さらなる追浜の魅力発見にご活用下さい。

(昌子 住江/理事長)

追浜を廻る大人のワンデーツアー開催

NPOアクションおっぱまの「追浜めぐり」ツアーは、2013年11月30日(土)の午前10時から午後4時に会員向け事業として開催しました。今回の目的は、追浜の魅力を再発見し、誇りに思う事、街を活性する観光振興の糸口や歴史的な軍事施設等を見学することで平和教育を探ることでした。第1の見学地は貝山周辺で、工場エリアに存在する明治から太平洋戦争前後のバールに包まれた足跡を廻りました。具体的に旧海軍のコンクリート構造物巨大壕のジーゼルオイル燃料庫、地下壕入口を見て頂きました。参加者は、地下壕内部に興味があり見学したいと言っていました。今回、第2の見学地は教育委員会の協力で「夏島貝塚や軍事遺構見学」が出来ました。普段は入れない場所の夏島は、皆さん「貝塚はどこですか等」大いに感動していました。最後にガイド役としては、手作り資料、地元栗城豆腐店に海軍航空隊弁当「おいなりさん」の開発、飛行兵が飲んだ「ココアウイスキー」のブランドバージョンを作り、お昼に美味しく食べました。

(青木 猛/副理事長)



(左)夏島貝塚 (右)砲座横の砲側弾薬庫

第三海堡構造物 横須賀市重要指定重要文化財に指定

夏島都市緑地に保存されている、東京湾第三海堡構造物の3基(観測所、探照灯、砲側庫)が、今年の3月に横須賀市重要指定重要文化財に指定されました。平成町うみかぜ公園の兵舎(H21年指定)とあわせて4基となります。6月29日(土)これを記念して、講演会と見学会が行われました。

アイクル会場には約90名の参加者で埋まり、講演Ⅰでは菅野先生(港湾航技研)による第三海堡の優れた設計技術が現代にも生かされている点など動画を使っての説明、講演Ⅱでは大原先生(横浜国大)による歴史遺産を広く保存活用する方策を実例を紹介しながらの説明がありました。地域資産をいかに生かしてまちづくりをしていくか、地域のみなさんと共有できたのではないかと思います。

(杉山 暢/理事)

◆ 追浜地区の文化財、文化資産

○国指定 夏島貝塚

○市指定 木造十王坐像/木造阿弥陀如来坐像/地藏・十王像

東京湾第三海堡構造物/豊臣秀吉禁/朝倉能登守室墓

○横須賀市の市民文化資産(市長指定)

明治憲法起草地記念碑/梅田隧道碑



第三海堡見学の様子

シンポジウム「東京湾まるごと博物館」に参加して

平成25年7月23日(火)、おっぱまはっけん倶楽部の方々とマイクロバスで館山に向かいました。イメージが湧かないままの初参加でしたが、シンポジウムが進むにつれ安房文化遺産フォーラム事務局長の池田恵美子さんの「東京湾まるごと博物館」構想の雄大な内容に引き込まれていきました。澁みの無いすべりような話に驚くばかりでした。

<シンポジウムのプログラム>

◆横須賀・追浜の現況と課題

昌子住江(NPO法人アクションおっぱま理事長)

◆館山の実践と今後の展開

杉江 敬(館山市教育委員会生涯学習課文化財係長)

池田恵美子(NPO法人安房文化遺産フォーラム事務局長)

◆戦跡等を活かしたまちづくりに向けての地域連携

岡田昌彰(近畿大学教授社会理工学部環境工学科)

愛沢伸雄(NPO法人安房文化遺産フォーラム理事長)

昌子住江(NPO法人アクションおっぱま理事長)

その内容は、東京湾の戦跡や文化財を保存活用し地域全体を「まるごと博物館」として、市民が主役のまちづくりを行うことでした。その後、青木繁<海の幸>誕生の家や布良崎神社等を見学して、東京湾まるごとの一部を体験したツアーを終えました。

(高杉 和枝/理事)



【海の幸】記念碑の前で記念撮影



追浜ワインの夢



私たち10人ばかりの「健老会」メンバーは箱根一泊の研修旅行にでかけました。各人は「老いと栄養」という課題つきで宴会前にお話することになっています。私は老いの身に多少なりともタッチしてきた追浜ワインについて発表しました。追浜ワインは2050年商店街運営で始まった日本初のワイナリーであり、関東学院大学との協力で製造を開始し、以来順調に運営、販売されていることを簡単に発表しました。そして、赤ワインは強い抗酸化ポリフェノールを有し、フランス人に動脈硬化が少ないのは赤ワインのおかげ、とまで言われていることを付け加えました。

宴会が終了した後なかなか寝付かれませんでした。ぼんやりと眼を閉じていると、いつか私は追浜駅ホームに降り立って大きな広告塔を見ていたのです。「オリンピック目指して追浜ワイン生産増強！！来たれ！若者募集中！！」。そしてその下にやや小さな字で追浜ワインの製造工程が貯蔵するところまで全自動化されたことが書いてあります。なお広告塔の右下の片隅を良く見ると、新しい醸造所の地図が書いてあります。私は急いで改札をでてデッキから海へ続く広い道路を見渡しました。アベノミクスで活気を取り戻した街にシャッターの閉まった店はもう見当たりません。私は新設された醸造所へと歩きだしました。けれど地図にあったにきた所で、朝日が眼に飛び込んできて眼があいてしまいました。「いい夢を見た」と、部屋をみるとワインの瓶がきらきらと光に包まれていました。

(内野 忠治/監事)



会員の声

日頃追浜管内の皆さまには追浜連合町内会事業活動に対し、ご理解ご支援を賜り誠にありがたく、心から感謝申し上げます。町内会活動も時代の流れとともに都市化の波、多様化した環境の中で大きく変化して参りました。多様性社会といわれる中で、最近外国籍の人たちが多く居住しております。ルールやマナーの悪さが問題となることもあり、横須賀市連合町内会発行の5カ国語のガイドブックがありますが、そうした冊子等を使用して周知をはかっています。他方では高齢化が進み「限界集落」といわれるところが出ているが、都市部も同じで集合住宅や町内会でも、班や組が編成できないところもあり町内会運営に苦慮しております。

町内会は例えていうならば、「和え物」であり、地域には特技を持った人材資源がたくさんいます。色々な人が色々な味を持っており、そんな人たちの知恵と労力を借り、真に味のある先進的なまちづくりがいかに実践出来るか今後の課題でしょう。住民はさまざまな選択をして未来を拓き、その一歩先を見据えて結果を期待している。そして大切なことは地域の歴史や伝統文化の保存育成であり、後世に如何に語り継いで行くかが必要です。NPO法人アクションおっぱまの取り組みは、地域の歴史資源にスポットを当て、活かした新しいまちおこしを行っており、共感します。追浜のさらなる発展とイメージアップのため、例えばシャッター街の寂しさ解消の一つとして、学生や絵の好きな人達に呼びかけて、追浜の未来を創造した「シャッター絵」をデザイン的に描くのも一考かと思います。

(澄川貞介 正会員/追浜連合町内会長)

大和まちづくりの会交流の記

大和まちづくりの会(貝塚会長, 会員 18 名, 発足 3 年)の初めての他市街づくり団体との視察交流会として, NPO 法人「アクションおっぱま」を 9 月 28 日訪問させていただきました。当日参加者 10 名が街づくりの先輩とお会いし体験談を聞けると期待一杯でした。まずは, “こみゆに亭カフェ”訪問。その後古澤理事によるワイナリー施設のご案内, 一同まさかカフェ隣接店舗内に“工場”がと驚き。地元大学生の知恵と規制緩和活用に無償奉仕が結合した成功事例を実感。

店内で昌子理事長から設立趣旨, 活動目的等傾聴。この店を活動拠点に地元商盛会とも協同, 理事長以下無報酬で住民への憩いの場提供など, “街づくりは息長い活動の実践”を痛感。店内の棚“私のこみせ”の商品を手にとって見る会員。ワイン試飲に昼食, 時間が早いこと。青木さんの横須賀市史, 追浜歴史概要説明。街づくりは市民が自分の街に誇りを持ち, 歴史を知ることが大事と教わりました。杉山, 内野, 高杉各理事さんの自己紹介後吉田先生の司会で当会会員自己紹介や大和市概要説明後, 交流会。理事さんの追浜への熱い思い, 発足 5 年, 歴史遺産観光, 地域振興を目指しての活動や今後の地元発展には新住民の取込みも進めたいとの積極的な姿勢も参考になりました。当会にとって改めて「まちづくり」を考え直す充実の一日でした。貴重な時間を空けて対応いただいた理事の皆様には感謝申し上げますとともに, 貴会のますますの躍進を期待し応援しております。(須賀 良二/大和まちづくりの会 副会長)



編集後記

今回追浜あんず通信の編集長を仰せつかりました。昌子先生、内野さん、菊地さんに助けられながらの新米編集長です。できるだけ多くの方に記事を書いていただきたいと思っていますのでよろしく。(吉田 洋子)

おっぱまワイン寄席 10 周年に寄せて

「追浜こみゆに亭寄席」と銘打って、柳家喬太郎師匠による第一回の落語会が開かれたのが 2014 年 12 月 18 日。ゲストは、江戸曲ごまの三増れ紋さん。第一回の会は、ワインがまだできる前でしたので、今のように「ワイン」を冠してなく、「追浜こみゆに亭開設記念」という名目で開かれました。この「初代」こみゆに亭は、現在のこみゆに亭カフェから、20 メートルほど駅寄りにありました。元居酒屋の空き店舗を借り、一階が店舗、二階の座敷は大学のゼミや打ち合わせなどに使っていて、落語会はその座敷で開きました。このときの観客が、20 名ほど。

蛍光灯の紐が、座布団に座った喬太郎師匠の目の前にぶら下がっていて、師匠が「まるで親戚の法事に来たようだ」と突っ込み、曲ゴマのれ紋さんは、狭い座敷ものともせず、小さな独楽、大きな独楽と、廊下にまではみ出すように回してくれました。もう十年もたつんですね。回を重ねるごとに、客の数も増え、2006 年からはエルシャンテ追浜に会場を移し、「おっぱまワイン寄席」として、すでに 9 回、客も 150 人前後の盛況。元はといえば、関東学院大学工学部の「さまざまな表現」という講義に喬太郎師匠をお呼びし、さらに生涯学習でも、「日本の文化」という講座をご担当していただいたことからの縁。そして追浜との地域連携へと広がったもの。このような企画と通じて、関東学院と追浜がさらに連携を深めていければと願っています。

(吉原 高志/関東学院大学教授)

★★第 10 回「おっぱまワイン寄席」お知らせ★★

日時:2014 年 3 月 3 日(月)18:00~20:00

会場:関東学院大学ベネットホール

出演:柳家さん喬 柳家喬太郎



追浜あんず通信 2013年12月発行 第6号

発行 特定非営利活動法人アクションおっぱま

〒237-0066 横須賀市追浜町 2-13

TEL 046-865-2625 FAX 046-866-2790

・発行人 昌子住江

・編集 内野忠治/菊地真紀子/昌子住江/吉田洋子